

令和 6 年度

「運営に関する計画」

大阪市立成南中学校

令和 6 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

本校の生徒の状況は、各学年とも落ち着いており、日々の学校生活や授業等において、暴力行為や授業妨害、教室内の立ち歩き等は特に見受けられない。しかしながら、不登校生徒が各学年に渡り、増加傾向にある。令和5年度の不登校生徒数は前年度を上回り、依然として本校の大きな課題である。登校支援のために家庭訪問や保護者連絡を継続的に行っているものの、連絡がつきにくい家庭が複数存在している。担任、副担任のみならず、本校に配置されている生活指導支援員やSSWの協力を得ながら、登校支援に努め、不登校、状況の改善に取り組んでいる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**○学習面**

令和5年度における中学生チャレンジテストの結果については、国語（3年+0.03 2年+0.06）数学（3年±0 2年-0.02）英語（3年-0.17 2年-0.03）となり、国語は大きく上昇したが、数学・英語については下降する結果となった。特に英語は、GTEC（大阪市英語力調査）においてもすべての分野で市平均を下回った。より一層個の発達段階に応じたきめ細かな指導に、取り組んでいかなければならない。

○体力面

全国体力・運動能力運動習慣等調査において、2年生女子がほとんどの種目で全国平均を超える結果であった。引き続きこの状態を維持・向上できるよう取り組んでいかなければならない。

【学びを支える教育環境の充実】**○ICTを活用した教育の推進**

校内における学習者用端末の活用率は月別では100%を保っており、生徒が日々端末を使用していることを示している。しかしながら、日別では平均して20%程度となっており、毎日端末を使用している生徒数は全校生徒の2割程度ということになる。大阪市教育振興基本計画の中間見直しにおいて示された目標『授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えた学校の割合を75%以上にする』を達成するために、日々の授業での活用だけでなく、「心の天気」など授業以外での活用も含めて、今まで以上に積極的な活用の方を考えていかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、もっとも肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 82%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校生の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握。

※改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、もっとも顕著な項目を選択する。）

1. 出席日数の増（学校内外で ICT 等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む。）
2. ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
3. 養護教諭。スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、もっとも肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 45%以上にする。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。

○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 56%以上にする。

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、もっとも肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 52%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○I C T の活用に関する目標。

すべての教員が協同学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。

○教職員の働き方改革に関する目標。

年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。

「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 に満たす教職員の割合を 56.4%以上、基準 2 を満たす教職員の割合を 84.9%以上にする。

（参考）「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準
基準 1 月の時間外勤務が 45 時間以内かつ 1 年間の総時間外勤務が 360 を時間以内）を原則

基準 2 次のすべてを満たすこと

A：1 年間の総時間外勤務が 720 時間を超えないこと。

B：1 か月の総時間外勤務が 45 時間を超える月を 1 年間に 6 月までとする。

C：1 か月の総時間外勤務が 100 時間を超えないようにすること。

D：連続する複数月（2 か月～6 か月）の総時間外勤務の平均がいずれも 80 時間を超えないこと。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 79%以上にする。(R5:74%)
- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 97%以上にする。(R5:97%)
- 年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、87%以上にする。(R5:85%)
- 年度末の校内調査の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。(R5:76%)
- 年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より1ポイント増加させる。(R5:90%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける国語・数学・英語の無回答率を、どの教科も同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。 ※全国平均を1とした時の割合 (R5:男0.88、女1.07)
- 年度末校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。(R5:86%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
- 今年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- 学校閉庁日については、長期休業期間中に年間5回以上設定する。
- 令和6年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。
- 令和6年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60%以上にする。(R5:58%)
- 令和6年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和5年度より5ポイント増加させる。(R5:64%)

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立成南中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を79%以上にする。(R5:74%) ○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。(R5:97%) ○年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、87%以上にする。(R5:85%) ○年度末の校内調査の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。(R5:76%) ○年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和5年度より1ポイント増加させる。(R5:90%)	

○安全・安心な教育環境の実現

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学期に1回のいじめについてのアンケートと教育相談を通して実態を把握し、学校いじめ防止基本方針に基づき、問題を解決する。 ----- 指標 令和6年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合100%を目指す。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 学校のきまり、特に時間を守り、落ち着いて学習に取り組むことができるように指導し、生徒の自律心を高める。始業までに学習準備を完了し、チャイムと同時に授業を始められることをめざす。 ----- 指標 学校評価アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。(前年度97%)	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 週に1回の全校集会、学年集会での講話を通して、他の人の気持ちや公共物を大切にする意識を養う。生徒の実態を把握し、生徒理解を深めるために教育相談を二、三学期に1回ずつ実施する。 ----- 指標 令和6年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を前年度より減少させる。(前年度17人)	

<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>スクリーニング会議の実施を通して不登校や配慮を要する生徒に対し、教職員の一致した支援・指導に生かす。</p> <hr/> <p>指標 令和6年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。(前年度13人)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>地域と連携した防災訓練を継続して行う。特に、消防署との連携をこれまでよりも推進し、生徒に対して防災に対する基本的な知識と技能を身に付けさせる。</p> <hr/> <p>指標 令和6年度の校内調査において、「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、85%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>警察署、消防署等との連携により被害防止プログラム・防犯教室等の研修会を充実させる。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケートにおける「学校の取り組みを通して、防犯意識や犯罪・トラブルから身を守る意識が高まった」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を年度当初より上昇させる。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

○豊かな心の育成

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>年間指導計画に基づき道徳科以外の各教科や教育活動を通じて「命を大切にし人権を尊重する心と態度を育てる子どもの育成」を行う。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケートで「友達を大切にしている」の肯定的回答を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の授業や、人権教育の取り組みを通して生徒の自尊感情を高める。このために、取り組みではワークシートを活用したり、外部講師を招いての講習を実践するなど、年間を通して生徒の実態に合わせた人権教育を行う。</p> <hr/> <p>指標 人権の取り組み項目である「平和学習・障がい者理解教育・多文化共生教育・性教育・キャリア教育・社会的な人権課題」のうち、各学年3項目以上の取り組みを生徒の実態に合わせて行い、3年間を通してすべての項目を取り扱う。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>高等学校の進学情報等、進路を考えるために必要な情報を視覚的に得ることができる学校環境を整備し、生徒の主体的な進路選択に資するとともに、系統的なキャリア教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケート「学校で将来・進路について考える機会がある」の肯定回答を75%にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの充実と推進 ・共に育ち共に学びあう交流および共同学習を進める <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の教職員アンケートで「個別の支援計画・指導計画を活用しつつ、生徒・保護者のニーズをくみ取りながら、よりよい支援のあり方を検討し取り組んでいる」という質問に対する肯定的回答を75%以上にする。 ・支援在籍生徒のアンケートで「学級活動や行事では自分の力を発揮できている」という質問に対する肯定的回答を75%以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>吹奏楽部活動を充実させ、コンクールや校内行事での演奏のほか、西成区民レクリエーション大会、大阪市民マラソン、校下小学校や幼稚園との交流等に出演して音楽・吹奏楽に親しむ機会を増やし、文化芸術に親しむ意識を醸成するとともに、演奏する者と聴く者との一体感、心のつながりの深化を図る。</p> <hr/> <p>指標 年間7回以上の演奏の機会を確保する。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>卒業式や入学式などの儀式的行事に対して、生徒が主体的にかかわり、趣旨を含めて理解し、集団の中にある自分を認識できる社会性の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケート「始業式・終業式などの式典行事にきちんと参加できた」の肯定回答を、前年度と同程度(90%程度)とする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

○道徳心・社会性の育成

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>年間指導計画に基づき道徳科以外の各教科や教育活動を通じて「命を大切にし人権を尊重する心と態度を育てる子どもの育成」を行う。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケートで「友達を大切にしている」の肯定的回答を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の授業や、人権教育の取り組みを通して生徒の自尊感情を高める。このために、取り組みではワークシートを活用したり、外部講師を招いての講習を実践するなど、年間を通して生徒の実態に合わせた人権教育を行う。</p> <hr/> <p>指標 人権の取り組み項目である「平和学習・障がい者理解教育・多文化共生教育・性教育・キャリア教育・社会的な人権課題」のうち、各学年3項目以上の取り組みを生徒の実態に合わせて行い、3年間を通してすべての項目を取り扱う。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>高等学校の進学情報等、進路を考えるために必要な情報を視覚的に得ることができる学校環境を整備し、生徒の主体的な進路選択に資するとともに、系統的なキャリア教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標 学校評価アンケート「学校で将来・進路について考える機会がある」の肯定回答を75%にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの充実と推進 ・共に育ち共に学びあう交流および共同学習を進める <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の教職員アンケートで「個別の支援計画・指導計画を活用しつつ、生徒・保護者のニーズをくみ取りながら、よりよい支援のあり方を検討し取り組んでいる」という質問に対する肯定的回答を75%以上にする。 ・支援在籍生徒のアンケートで「学級活動や行事では自分の力を発揮できている」という質問に対する肯定的回答を75%以上にする。 	

<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>吹奏楽部活動を充実させ、コンクールや校内行事での演奏のほか、西成区民レクリエーション大会、大阪市民マラソン、校下小学校や幼稚園との交流等に出演して音楽・吹奏楽に親しむ機会を増やし、文化芸術に親しむ意識を醸成するとともに、演奏する者と聴く者との一体感、心のつながりの深化を図る。</p> <p>指標 年間7回以上の演奏の機会を確保する。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>卒業式や入学式などの儀式的行事に対して、生徒が主体的にかかわり、趣旨を含めて理解し、集団の中にある自分を認識できる社会性の育成を図る。</p> <p>指標 学校評価アンケート「始業式・終業式などの式典行事にきちんと参加できた」の肯定回答を、前年度と同程度(90%程度)とする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

○国際社会において生き抜く力の育成

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>すべての学年において、多様な価値観を持った人々と協働していくための力を育成する。</p> <p>指標 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>すべての学年で、視聴覚教材や講話・生徒同士の交流などを通じて、多文化共生教育を推進する。</p> <p>指標 在日外国人問題を含む多文化と共生するための教育を、中学校在籍の3年間の中で、学習する機会を設ける。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立成南中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける国語・数学・英語の無回答率を、どの教科も同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.05 ポイント向上させる。 ※全国平均を 1 とした時の割合 (R5 : 男 0.88、女 1.07) ○年度末校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。 (R5 : 86%)	

○学力の向上

①国語科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 漢字や文法など知識の反復学習と、文章表記する学習を毎時間取り入れて記述力、読解力の向上を図る。 ----- 指標 チャレンジテストの無答率を同一母集団において経年的に比較し、前年度より 1 ポイント減らす。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 1 年生から作文力、発言力をつける取り組みに着手する。聞き取りテスト、様々な話し合いの方法、および ICT 機器の活用などを取り入れて、学力の向上を図る。 ----- 指標 教科の授業アンケート「他の人の意見も参考に、自分の考えを深めたり自分で答えを見つめたりできる授業だと感じますか」の肯定回答を同一母集団において経年的に比較し、前年度 (94%) より 1 ポイント増やす。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業中、全員が答えられる発問を取り入れ、積極的に授業に取り組めるよう工夫する。 ----- 指標 教科の授業アンケート「授業が分かりやすい」の肯定回答を 75%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 年間を通じて家庭での宿題を出し、授業で漢字テストなどの確認テスト等を実施する。 ----- 指標 宿題を年間で 50 回以上出し、その提出率を 90%以上にする。单元ごとに漢字テストを実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

②社会科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 学習内容を定着させるため、課題を出したり単元終了後の小テストを実施したりする。</p> <p>指標 チャレンジテストの平均無回答率が大阪市の平均より下回る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的・対話的で深い学びを推進するため、課題を追究したり解決したりする活動などを取り入れる。</p> <p>指標 授業アンケートの項目「学校独自の観点（学級の友達と話し合い、自分の考えを深め、広げたりする授業だと感じますか）」において、肯定回答割合を85%以上とする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 授業内容についての興味・関心・意欲を向上させるため、ICT機器を活用するなど学習活動を工夫する。</p> <p>指標 授業アンケートの項目「興味・関心・意欲の向上」において、肯定回答割合を85%以上とする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 家庭での学習習慣を身に付けさせるため、長期休業中を含め、さまざまな課題を多く出す。</p> <p>指標 課題を年間で65回以上出す。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

③数学科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 個々それぞれの学力に応じて問題を提示し、学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 チャレンジテストの結果が、経年比較で、前年度よりも向上することとする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 1つの問題に対して話し合う時間を設け、お互いに協力し合って理解を深め合う。</p> <hr/> <p>指標 各学年ごとに数学科でアンケートを行い、結果が肯定回答75%以上まで向上することとする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ICT機器、教具などを活用し、視覚的な理解ができるよう工夫し、個々の学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 各学年ごとに数学科でアンケートを行い、結果が肯定回答70%以上まで向上することとする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 きめ細やかな指導をするため、各学年で少人数分割・習熟度別授業(1学期は2年生で、2学期は1年生で、3学期は3年生で実施)を行い、個々の学力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 各学年ごとに数学科でのアンケートを行い、分割・習熟度別授業についての肯定回答の割合を70%以上とする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

④理科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 前年度の学習内容を積極的に授業で取り入れる。テストやプリント学習において、無回答率を減らす。</p> <hr/> <p>指標 チャレンジテストの無回答率を大阪府平均より下回る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 実験や日々の学習の中で、主体的・対話的で深い学びを取り入れる。発問やワークシートを工夫する。</p> <hr/> <p>指標 授業アンケートの結果、「学習内容の習得」の観点(または学校独自の観点)で肯定回答を75%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 分かりやすい授業づくりのために、実験を行ったり、ICT 機器を積極的に使ったりして、興味・関心を高める授業づくりを行う。</p> <p>指標 「興味・関心・意欲の向上」の肯定回答を 75%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 单元ごとに実験を行う。また、教科書に掲載されている実験以外にも、生徒の興味関心を引き出すための実験を計画する。</p> <p>指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を 75%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑤音楽科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 グループでの意見交換や ICT 機器の活用などを通じて様々な音楽や、音楽に対する他者の感じ方考え方に触れさせる。</p> <p>指標 授業アンケート「興味・関心・意欲の向上」の項目において、肯定回答の割合が 80%を上回る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 合唱や合奏などの体験を通して、表現に対する自分の明確な考えを持てる生徒を増やす。</p> <p>指標 授業アンケート「学習内容の習得」の肯定回答の割合が 80%を上回る。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校区小学 6 年生を招いた授業で音楽科への興味関心を高める器楽合奏を取り入れた授業を行い、小中連携に貢献し、学ぶ意欲の向上につなげる。</p> <p>指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を 70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑥美術科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>制作の手順や道具の使い方をわかりやすく伝えるために ICT 機器を活用する。また、美術の得意な子どもから苦手な子どもまで取り組めるように、課題の設定を工夫する。</p> <p>指標 昨年度、達成できなかったので、授業アンケート「興味・関心・意欲の向上」の項目において、肯定回答の割合を 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>グループで話し合い、自分の考えを深め作品をより良いものにする。また、鑑賞によって他者の思いを汲み取り、自分の考えを伝えられるようにする。</p> <p>指標 発想段階や鑑賞の授業でグループでの話し合いやアドバイスシートなどを活用し、お互いの意見を交換できる場面を設ける。学校評価アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」の肯定回答の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校区小学 6 年生の体験授業では美術科への興味関心を高める専門的な授業を行い、小中連携に貢献する。</p> <p>指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を 90%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑦技術・家庭科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICT 機器の活用や、主体的・対話的、協同的な学習を取り入れた授業を年間 3 5 時間程度（3 年生は 17 時間）行う。</p> <p>指標 教科独自のアンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」という肯定回答が、各学年 90%以上とする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>習得した知識や技術を生活の中で実践できるよう、実習後の振り返りの中で「自己評価」や「相互評価」を行う。</p> <p>指標 教科独自のアンケートで「自分の学習の成果を振り返り、自己評価をすることができた」の肯定回答を各学年 90%以上とする。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 材料や用具、機器を大切に扱い、安全にも留意しながら作業する力を養う。</p> <p>指標 教科独自アンケートで、「実習の道具や機器の取り扱いについて、自分だけでなく学級の友達と作業の中で、細心の注意を払うことができるようになった」の肯定回答が 90%以上とする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 授業の準備物の徹底を図り、忘れ物をする生徒を減少させる。</p> <p>指標 教科の独自アンケートで、「次回の授業準備を事前に行い、忘れ物をしない努力をした」の肯定回答が 95%以上とする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 校区小学 6 年生を招いた授業で技術・家庭科への興味関心を高める簡単な実習を取り入れた授業を行い、小中連携に貢献する。</p> <p>指標 参加児童へのアンケートで「体験授業で中学校での生活が楽しみになった」の肯定回答を 90%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑧英語科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 反復練習により基本文型の徹底を図り、小テストで単語・重要構文の定着を図る。</p> <p>指標 現 3 年を 2 年時、現 2 年を 1 年時のチャレンジテストの結果と比較、現 1 年は前年度の 1 年の結果と比較し、昨年度以上とする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 コミュニケーション能力の向上のために、ペアワーク、グループワークを取り入れ、C-NET との言語活動の充実を図る。</p> <p>指標 授業アンケート「主体的対話的で深い学びの育成」の項目で、肯定回答 77%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】 ICT 機器及び視聴覚教材の活用を図り、英語に対する興味・関心を高める。</p> <p>指標 授業アンケート「興味・関心・意欲の向上」の項目で、肯定回答 77%以上にする。</p>	

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎・基本的な内容を確実に定着させるため、1人1台生徒端末を使用した演習を行う。	
指標 1人1台生徒端末を使用した授業を各クラスで年5回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

⑨自主学習支援

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 テスト前学習会や長期休業中の補充学習を拡充し自主学習を定着させるため、「学びサポーター」や西成区登校支援・見守りサポーター事業（略称まなサポ）を活用し、放課後自主学習教室や夏季休業中の学習会を開設する。	
指標 サポーター等を活用した放課後自主学習教室および夏季休業中の学習会を年間70回以上開設する。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 各教科で計画的に宿題や自主学習課題を設定し、こまめに点検活動を行う。	
指標 昨年は目標が達成できなかった。昨年度に引き続き、学校評価アンケート「家で学校の宿題や授業の復習をしている」の肯定回答を生徒、保護者共に66%以上を指標とする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

○健康や体力を保持増進する力の育成

①保健体育科

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 補強運動として、腹筋・背筋・腕立て伏せに加えて、柔軟性・敏捷性を強化するトレーニングやストレッチを取り入れる。</p> <p>指標 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、近年の課題である「長座体前屈」と「反復横跳び」の平均の記録を、それぞれ前年度より 2 ポイント向上させる。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 生涯において運動の大切さを理解させ、今後の生活にも生かせるような授業を行う。</p> <p>指標 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、「あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか」の項目で、肯定回答の割合が 80%を上回る。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 グループ学習を積極的に取り入れ、教えあいの場を多く設けるような授業展開に努める。</p> <p>指標 校内調査「授業が分かりやすい」の項目において、肯定回答の割合が 80%を上回る。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

②健康教育

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 生徒保健委員が主体的に行う学校保健委員会に取り組み、生徒向けに発表を行う。</p> <p>指標 学校保健委員会後の生徒アンケートにおいて、肯定回答の生徒を 90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 健康への理解を深めるため保健だよりや食育通信, 給食のポスター等でを発行し、生徒や保護者の健康への興味・関心を高め、日々の生活の改善を意識させる。</p> <p>指標 保健委員会が年間 3 回以上の、学年集会などの場を利用して健康に関する発表を行い。保健委員向けの独自アンケートを行い、肯定回答を 90%以上とする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立成南中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>○今年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。</p> <p>○学校閉庁日については、長期休業期間中に年間 5 回以上設定する。</p> <p>○令和 6 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。</p> <p>○令和 6 年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60%以上にする。(R5:58%)</p> <p>○令和 6 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和 5 年度より 5 ポイント増加させる。(R5 : 64%)</p>	

○ICT 活用の推進

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行う。</p> <hr/> <p>指標 校務支援システムを活用した生徒の情報共有や生徒を軸にした情報発信を、中期目標達成に生かせるよう効果的に行い、保護者アンケートの「学校ホームページや保護者メールを活用している」の肯定回答を 85%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>普通教室以外の特別教室、すなわち少人数習熟度別授業を行う教室、理科室、美術室、家庭科実習室、LL 教室などに ICT 機器を追加配置を行い、授業での ICT 機器活用をより充実させる。</p> <hr/> <p>指標 校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、90%にする。</p>	

取組内容③【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 授業を通じてプログラミングの基本的学習を行う。 ----- 指標 2年生にて年間12時間以上の授業に取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

○地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 吹奏楽部による西成区民レクリエーション大会や大阪市民マラソンなどの地域や市民の交流行事をはじめ、校区小学校や幼稚園との交流等実施し、地域との連携を推進するとともに小中連携の充実に努める。 ----- 指標 地域や校区小学校・幼稚園との連携した取り組みを年間10回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 生徒がより主体的に、より身近に本に親しみ読書の習慣を身に着ける。 ----- 指標 年度末の校内調査において「読書は好きですか」に対する肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	

○教員の資質向上・人材確保

取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たし、心身ともに健康な教職員集団を築く。 ----- 指標 学校閉庁日については、長期休業中において年間5日以上設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

